

## 平成 26 年度長野県立歴史館協議会 議事録

1 : 日 時 平成 26 年 7 月 11 日(金) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

2 : 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 : 出席者

○委員（五十音順） 会田進委員、岡田昭雄委員、高澤政江委員、竹内誠委員長、中條智子委員、山浦寿委員、湯原儀芳委員、矢嶋誠委員（小林純子委員、堀内征治委員 欠席）

○県立歴史館 青木館長、奥村副館長、市川学芸部長、福島総合情報課長、原考古資料課長、青木文献史料課長、傳田専門主事、寺内専門主事、遠藤専門主事、文化財・生涯学習課 斉藤課長補佐、高橋文化財係長、平林主任指導主事、大月主事

4 : 会議次第

- (1) 会議
- (2) 歴史館館長あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 職員紹介
- (5) 会議成立報告（10 名中 8 名の出席をもって会議成立）
- (6) 議事
  - ア 平成 25 年度事業実施状況について
  - イ 平成 25 年度事業の評価について
  - ウ 歴史館のあり方(案)について
  - エ 平成 26 年度事業及び評価について
- (7) 閉会

5 : 会議の概要

- (1) 議事その 1（議題ア・イを一括）

[竹内会長] 簡単なあいさつ後、議事(1)(2)と(3)(4)に分けて進行。

(事務局説明)

「平成 25 年度事業実施状況について」及び「平成 25 年度事業  
の評価について」資料に従い概要説明。

以下、要点

館設定テーマの研究：継続実施中です。

利用者評価：観覧者増加で達成度7割。ただし観覧者は減少。2月の大雪の影響で、この時期4000人減です。

学校教育支援：良くできたと思います。

楽しめる場：親子映画会は、開催日の設定に課題を残した。

総利用者数は8,000人減少した。このうち企画展で6000人減少（ただし2月の影響含む）したことが課題。

アンケートの回答からは、以下の事実がわかる

- ・北信が多い。
- ・当館を知った機会は遠足、社会見学が多い。
- ・5月が最多で、冬季が少ない。これをなんとか伸ばしたい。
- ・企画展に関しては、認知機会としてポスター・チラシが多い。

#### 【質疑応答及び意見交換】

[竹内会長] 資料P.4～5に自己評価があるが、協議会の評価が7項目ある。A～Cを入れられないかということだが、いかがか。（異論無しとして議事を進める）

[山浦委員] 昨年度の試行段階での自己評価はAやCがあったが、Bが非常に増えた。自己評価がBばかりになっていないか、どう考えたのか。

達成目標値も「7割」という数字が多く出るが、根拠は何か

古文書講座25回中の985人の出席率8割はどういう意味か。数字が合わないのでは。

[事務局] 数値以外の要因によるものなどでCを付けずにBにしたものがある。

「(より高める) 余地を残したライン」として7割を設定。

985名は受講実数。出席率をもって満足度の評価としている。

[竹内会長] では評価に入る。

資料収集等の項目で「収集資料2件」とは何か

[事務局] 満州移民関係の資料の寄贈です。

[竹内会長] 新資料の導入がないと博物館は死ぬ。しかし、その項目がないのはいかがなものか。

[山浦委員] 満州移民の資料収集が少ないのではないか。今後も積極的に取り組まれないか。

[竹内会長] 全体的には資料収集等はBでよいか。（異論無し）

[竹内会長] 資料の保護・活用はAでよいか

[山浦委員] 妥当であろう。（異論無し）

[竹内会長] 成果の普及は何か。季節展と企画展の違いはなにか。

[事務局] 館内の予算措置の問題なので、今後はとりたてて区別しない方向で行きたい。

[竹内会長] 全体的には成果の普及は B でよいか。(異論無し)

[竹内会長] 生涯学習支援はどうか。古文書講座、講演会は A でも良くないか。満足度は 80% を超えている。

[山浦委員] この数値は、他県の基幹的博物館に比して高くない。他県では 9 割などはザラにある。試行段階で A であったものが B になっている。先ほど申したとおり、満足度も必ずしも高いわけではない。また、「やさしい信濃の歴史講座」は回数が減っているがどうなのか。

[事務局] 以前は 5 回だった。これを研究発表とあわせて、全員でこの講座に取り組んだ方がよいとの考えで、1 回で 2 名の発表として 9 回やったこともあるが、過重負担から 7 回に減らした。事業量とのかねあいで調査研究のあり方を検討課題にしている。今年 は 7 回とりくみたい。

[山浦委員] 部長から説明があつてしかるべきでないか。

[竹内会長] どうするか。内容が良いブックレットもある。

[山浦委員] 出版だけでなく見学会などもある。A で良い。

[竹内会長] しかし自己評価は A と B が同数。きびしく B (ほぼ達成) とするか。(異論無し)

[竹内会長] 学校教育はどうか。

[山浦委員] A で良い。非常に勉強になったとの声を聞いた。

[竹内会長] 学校教育との連携は命である。期待をこめて A。(異論無し)

[竹内会長] 歴史館情報提供は B でよいか。(異論無し)

[竹内会長] 参加して楽しめる場合は、内容は何か。

[事務局] 基本的に「日本むかし話」のビデオ等を上映している。

[竹内会長] 開催日は大失敗。B とする。(異論無し)

[竹内会長] 県民参画は。愛好会の参加とは。

[事務局] 冬季の実習参加者のべ数は 500 オーバーしている。

[竹内会長] 県民参画は A でよいか。(異論無し)

## (2) 議事その 2 (議題ウ・エを一括)

(事務局説明)

「歴史館のあり方(案)について」及び「平成 26 年度事業及び  
評価について」資料に従い概要説明。以下、要点

全体の枠組み、「あり方(案)」の新しい内容部分を説明

市町村アンケートの結果について：「どちらともいえない」が多く、  
一層努力する必要がある。

利用が無かった小学校へのアンケートについて

新しい事業について：巡回展計画中。出前巡回講座を予定。安曇野市  
との連携講座。測量設計業協会との共同研究。市町村教育  
委員会との共同研究。信濃史料のデジタル化。縄文土器絵  
画展。保存処理支援。ボランティアなど。

「県内博物館の先端的役割」：県博協における初めてのグループ協議、  
また開催自体を本館が主体的に行った。

#### 【質疑応答及び意見交換】

[竹内会長] まず、あり方案について

[会田委員] 「連携」と「出前」のキーワードは、市町村博物館との連携ということか。

[事務局] 学校や企業も含む。

[会田委員] 市町村の博物館活動がかなり低迷している。歴史館が出て行って資料の収集・保管にまで踏み込んで行くべきと考える。「連携」というより指導的に進めて欲しい。それは歴史館にとってもプラスになる。基本である資料収集調査を進めるべき。展示ありきではなく、資料の収集が先ではないか。

[山浦委員] 会田委員の前段について意見。「連携」の語義はあいまい。

センター機能を当館が持つこととは、ネットワークを持つこと。博物館や教育行政担当者、大学や研究団体をつなぐ地域史・地域研究ネットワークをつくるべき。それによって、現下の課題等を歴史館が掴んでいくべき。市町村博物館の低迷は看過できない問題で、このネットワークのイニシアチブを当館が取るべきである。

[竹内会長] 用語を整理し、県内博物館だけが対象と見られないように。

「連携」と「出前」は並列する物ではないだろう。

全体としてはすばらしい。不満を言えば、展示ありきではない資料収集が先である。必ずしもお金がないから買えないというものではないが、個人でも買える額の古書市場への流出品が買えるような予算はつけてほしい。

研究は、展示（資料）に価値を与えるもの。買ったから置けばいいというものではない。

また、展示したことによって寄贈されてくる資料もある。それは、学芸員の努力。館としてよりも面と向かった学芸員への信頼が大きい。

[中條委員] 老朽化についてはどう取り組むのか。

[事務局] 今年は空調設備。2.5億円で改修中。必要なものはやっています。

[竹内会長] 絶えず部分改修で対応し、適切なタイミングで大規模改修を。収蔵庫や展示会場の不備は致命的。適切にその都度対応を。

[湯原委員] 企画展示室が小さすぎる。2・3年に一度は大型企画展ができればよい。連携の成果もそのようなところに取り組むべき。常設展の一部を企画展示室にできないか。

[竹内会長] 平成26年度事業についてはどうか。

[会田委員] 巡回講座、巡回展あるいは共同研究などを新たにやるにしても、事業量が増えて職員体制は大丈夫か。

[竹内会長] 普通新規事業をするときは、非効率の事業を廃止して行う。人手が足りないと成功しない。

[事務局] 季節展の削減。学校解説のあり方見直し。勾玉体験学習の縮小などを考えている。

[会田委員] 勾玉は廃止が妥当。それでも、業務量は増えているはず。きちんとした研究職員を増やしていくべきではないか。ぜひ、職員増の働きかけを。

[青木館長] 行政改革課では定数削減を行ってきた。県全体でそのようなことを考えている中で、いかに増やすかを考えたい。

[会田委員] 定員増はともかく、人員の入れ替え可能な採用を。

### (3) その他

[竹内会長] 「長寿日本一の信州力（トランヴェール）」によれば、長野県の博物館・社会体育施設数は日本一。公民館・図書館は2位。それが長生きの秘訣と言うことは、博物館の活性化は県民の一層の長寿化につながる。長野県の数ある博物館の中核として、当館はますますがんばって欲しい。